

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

斜面

2021.4.3

サンフランシスコで天然痘が流行した1876年。市担当者がまん延の原因だと根拠なくのしつた相手は、ゴ

ールドラッシュを機に移住していた中国人だった。低賃金で働く彼らは、白人たちの仕事を奪っていると白眼視されていた◆1900年にチャイナタウンでペストの発生が疑われると、すぐに街を封鎖した。白人を退去させる一方、アジア人が出ることを禁じた。同じころ欧州ではドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が黄禍論を唱え、台頭する日本への警戒を盛んに言い募っていた―◆世界史の深部を長く流れる西欧とアジアの対立、差別の歴史は廣部泉著「黄禍論 百年の系譜」に詳しい。米国で急増するアジア系市民への憎悪犯罪も、深い部分で根は同じか。路上で突然暴行される。侮蔑的な言葉を吐かれる。白人だけでなく黒人や中南米系からも攻撃される◆新型コロナを「中国ウイルス」と繰り返し叫んだトランプ前大統領らの罪は大きい。居場所を失って鬱屈する人々が他者を排撃する「免罪符」になったのではないか。心の中に潜む差別や偏見は、きつかけがあればいつでも噴き出す。どの国でも同じだ◆ふだんは隠れている病が症状として現れた今こそ、治療の好機といえる。沈黙は差別の容認に等しい。著名なアスリートやアーティストも相次いで非難のコメントを発信している。憎悪に憎悪を返すのではなく、理性を回復したい。コロナとともに世界が乗り越えねばならぬ大きな宿題だ。

斜面

2021.4.5

薄暗い湖畔の木の下で老人と少年が毛布にくるまり眠っている。そよ風が吹くと、辺りの景色が少しずつ動き出

す。目覚めた2人は湖にボートを下ろし沖にこぎ出る。ユリー・シユルヴィッツの絵本「よあけ」は静かに朝の時間が過ぎる◆素朴な水彩画を短い言葉がつなぐ。場面は太陽の光とともに刻々と明るさを増す。周囲の山と湖が一つになったラストが圧巻だ。ポーランド出身の作者は中国唐代の詩に着想を得ている。日本でも1977年の発刊から50回余の版を重ねて読み継がれる◆茅野市の今井書店店長高村志保さんにとっても小学生時代からの大切な1冊だ。大学を出て京都で就職したころ、帰りに書店へ寄ると有無だけを確認していた。今も各地の書店に行けば探すという。日本中の店に置かれ、あの太陽がみんなを照らしてくれたらしいなど思いながら◆2月に発表したエッセー「絵本のなかへ帰る」に書いている。「おおきなかぶ」「ないたあかおに」…書店を始めた父に読み聞かせてもらった。幼児期から子育てを経て今に至るまで共にしてきた。数々の本との日々を、印象深い作品の世界に重ねた◆新潟の旧山古志村が舞台の「きつねにようぼう」は満開のツバキがモチーフだ。高村さんの本に誘われて読んでみた。近隣の庭に盛りの木を見つけた。「ああ、ここにも」と心がほぐれる。絵本の魅力は大人も味わえる。年度が改まり何かと落ち着かなくても、そんな時間を大切にしたい。

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 4. 5

うすぐらいこはんのきのしたでろうじんとしようねんがもうふにくるまがもつてゐる。そよかぜがふくと、あたりのけしきがすこしずつうごきだす。めざめた2人はみずうみにポートをおろしおきにこぎでる。ユリー・シュルヴィッツのえほん「よあけ」はずかにあさのときがすぎる◆そぼくなすいさいがをみじかいことばがつなぐ。ばめんはたいようのひかりとともにこっこくとあかるさをます。しゅういのやまのみずうみがひとつになったラストがあっかんだ。ポールランドしゅっしんのさくしやはちゅうごくとうだいのしにちやくそうをえている。にほんでも1977ねんのはっかんから50かいよのはんをかさねてよみつがれる◆ちのしの今井書店でんちょう高村志保さんにとつてもしょうがくせいじだいからのたいせつな1さつだ。だいがくをでてきょうとでしゅうしよくしたころ、かえりにしよてんへよるとうむだ

けをたしかめていた。いまもかくちのしよてんにいけばさがすという。にほんじゅうのみせにおかれ、あのたいうがみんなをてらしてくれたらいいなとおもいながら◆2がつにはっぴょうしたエッセー「絵本のなかへ帰る」にかいてゐる。「おおきなかぶ」「ないたあかおに」…。しよてんをはじめたちちによみきかせてもらった。ようじきからこそだてをへていまにいたるまでともにしてきた。かずかずのほんとのひびを、いんしゅうぶかいさくひんのせかいにかさねた◆にいがたの旧山古志村がぶたいの「きつねによつぼう」はまんかいのツバキがモチーフだ。高村さんのほんにさそわれてよんでみた。きんりんのわにさかりのきをみつけた。「ああ、ここにも」ところがほぐれる。えほんのみりよくはおとなもあじわえる。ねんどがあらたまりなにかとおちつかなくても、そんなじかんをたいせつにしたい。

コラム「^{しゃめん}斜面」を読んで考えを深めよう

年 組 名前

斜面

2021.4.3

サンフランシスコで天然痘が流行した1876年。市担当者がまん延の原因だと根拠なくのしつた相手は、ゴ

ールドラッシュを機に移住していた中国人だった。低賃金で働く彼らは、白人たちの仕事を奪っていると白眼視されていた◆1900年にチャイナタウンでペストの発生が疑われると、すぐに街を封鎖した。白人を退去させる一方、アジア人が出ることを禁じた。同じころ欧州ではドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が黄禍論を唱え、台頭する日本への警戒を盛んに言い募っていた―◆世界史の深部を長く流れる西欧とアジアの対立、差別の歴史は廣部泉著「黄禍論 百年の系譜」に詳しい。米国で急増するアジア系市民への憎悪犯罪も、深い部分で根は同じか。路上で突然暴行される。侮蔑的な言葉を吐かれる。白人だけでなく黒人や中南米系からも攻撃される◆新型コロナを「中国ウイルス」と繰り返し叫んだトランプ前大統領らの罪は大きい。居場所を失って鬱屈する人々が他者を排撃する「免罪符」になったのではないか。心の中に潜む差別や偏見は、きっかけがあればいつでも噴き出す。どの国でも同じだ◆ふだんは隠れている病が症状として現れた今こそ、治療の好機といえる。沈黙は差別の容認に等しい。著名なアスリートやアーティストも相次いで非難のコメントを発信している。憎悪に憎悪を返すのではなく、理性を回復したい。コロナとともに世界が乗り越えねばならぬ大きな宿題だ。

① 次の言葉の読みと意味を調べましょう。

(白眼視)

白眼視

② 筆者が、「今、症状として現れた」とする「ふだんは隠れている病」とは、何ですか。第四段落から探して書きましょう。

Blank dashed box for writing the answer to question 2.

③ 筆者の考えに対して、あなたはどのように考えますか。200字程度で書きましょう。

Large grid for writing the answer to question 3.

コラム「^{しゃめん}斜面」を読んで考えを深めよう

解答例

年 組 名前

斜面

2021.4.3

サンフランシスコで天然痘が流行した1876年。市担当者がまん延の原因だと根拠なくのしつた相手は、ゴ

ールドラッシュを機に移住していた中国人だった。低賃金で働く彼らは、白人たちの仕事を奪っていると白眼視されていた◆1900年にチャイナタウンでペストの発生が疑われると、すぐに街を封鎖した。白人を退去させる一方、アジア人が出ることを禁じた。同じころ欧州ではドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が黄禍論を唱え、台頭する日本への警戒を盛んに言い募っていた―◆世界史の深部を長く流れる西欧とアジアの対立、差別の歴史は廣部泉著「黄禍論 百年の系譜」に詳しい。米国で急増するアジア系市民への憎悪犯罪も、深い部分で根は同じか。路上で突然暴行される。侮蔑的な言葉を吐かれる。白人だけでなく黒人や中南米系からも攻撃される◆新型コロナを「中国ウイルス」と繰り返し叫んだトランプ前大統領らの罪は大きい。居場所を失って鬱屈する人々が他者を排撃する「免罪符」になったのではないか。心の中に潜む差別や偏見は、きっかけがあればいつでも噴き出す。どの国でも同じだ◆ふだんは隠れている病が症状として現れた今こそ、治療の好機といえる。沈黙は差別の容認に等しい。著名なアスリートやアーティストも相次いで非難のコメントを発信している。憎悪に憎悪を返すのではなく、理性を回復したい。コロナとともに世界が乗り越えねばならぬ大きな宿題だ。

① 次の言葉の読みと意味を調べましょう。

（ はくがんし ）

白眼視―

【例】人を冷たい目で見ること。冷淡に扱うこと

② 筆者が、「今、症状として現れた」とする「ふだんは隠れている病」とは、何ですか。第四段落から探して書きましょう。

【解答】 心の中に潜む差別や偏見

③ 筆者の考えに対して、あなたはどのように考えますか。200字程度で書きましょう。

Grid for writing answers to questions 2 and 3.

1面のコラム「斜面」を読もう

斜面

2021.4.3

サンフランシスコで天然痘が流行した1876年。市担当者がまん延の原因だと根拠なくのしつた相手は、ゴ

ールドラッシュを機に移住していた中国人だった。低賃金で働く彼らは、白人たちの仕事を奪っていると白眼視されていた◆1900年にチャイナタウンでペストの発生が疑われると、すぐに街を封鎖した。白人を退去させる一方、アジア人が出ることを禁じた。同じころ欧州ではドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が黄禍論を唱え、台頭する日本への警戒を盛んに言い募っていた―◆世界史の深部を長く流れる西欧とアジアの対立、差別の歴史は廣部泉著「黄禍論 百年の系譜」に詳しい。米国で急増するアジア系市民への憎悪犯罪も、深い部分で根は同じか。路上で突然暴行される。侮蔑的な言葉を吐かれる。白人だけでなく黒人や中南米系からも攻撃される◆新型コロナを「中国ウイルス」と繰り返し叫んだトランプ前大統領らの罪は大きい。居場所を失って鬱屈する人々が他者を排撃する「免罪符」になったのではないか。心の中に潜む差別や偏見は、きつかけがあればいつでも噴き出す。どの国でも同じだ◆ふだんは隠れている病が症状として現れた今こそ、治療の好機といえる。沈黙は差別の容認に等しい。著名なアスリートやアーティストも相次いで非難のコメントを発信している。憎悪に憎悪を返すのではなく、理性を回復したい。コロナとともに世界が乗り越えねばならぬ大きな宿題だ。

斜面

2021.4.5

薄暗い湖畔の木の下で老人と少年が毛布にくるまり眠っている。そよ風が吹くと、辺りの景色が少しずつ動き出

す。目覚めた2人は湖にボートを下ろし沖にこぎ出る。ユリー・シユルヴィッツの絵本「よあけ」は静かに朝の時間が過ぎる◆素朴な水彩画を短い言葉がつなぐ。場面は太陽の光とともに刻々と明るさを増す。周囲の山と湖が一つになったラストが圧巻だ。ポーランド出身の作者は中国唐代の詩に着想を得ている。日本でも1977年の発刊から50回余の版を重ねて読み継がれる◆茅野市の今井書店店長高村志保さんにとっても小学生時代からの大切な1冊だ。大学を出て京都で就職したころ、帰りに書店へ寄ると有無だけを確かめていた。今も各地の書店に行けば探すという。日本中の店に置かれ、あの太陽がみんなを照らしてくれたらしいなど思いながら◆2月に発表したエッセー「絵本のなかへ帰る」に書いている。「おおきなかぶ」「ないたあかおに」…書店を始めた父に読み聞かせてもらった。幼児期から子育てを経て今に至るまで共にしてきた。数々の本との日々を、印象深い作品の世界に重ねた◆新潟の旧山古志村が舞台の「きつねにようぼう」は満開のツバキがモチーフだ。高村さんの本に誘われて読んでみた。近隣の庭に盛りの木を見つけた。「ああ、ここにも」と心がほぐれる。絵本の魅力は大人も味わえる。年度が改まり何かと落ち着かなくても、そんな時間を大切にしたい。

1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 4. 5

うすぐらいこはんのきのしたでろうじんとしようねんがもうふにくるまがもつてゐる。そよかぜがふくと、あたりのけしきがすこしずつうごきだす。めざめた2人はみずうみにポートをおろしおきにこぎでる。ユリー・シュルヴィッツのえほん「よあけ」はずかにあさのときがすぎる◆そぼくなすいさいがをみじかいことばがつなぐ。ばめんはたいようのひかりとともにこっこくとあかるさをます。しゅういのやまのみずうみがひとつになったラストがあっかんた。ポールランドしゅっしんのさくしやはちゅうごくとうだいのしにちやくそうをえている。にほんでも1977ねんのはっかんから50かいよのはんをかさねてよみつがれる◆ちのしの今井書店でんちょう高村志保さんにとつてもしょうがくせいじだいからのたいせつな1さつだ。だいがくをでてきょうとでしゅうしよくしたころ、かえりにしよてんへよるとうむだ

けをたしかめていた。いまもかくちのしよてんにいけばさがすという。にほんじゅうのみせにおかれ、あのたいうがみんなをてらしてくれたらいいなとおもいながら◆2がつにはっぴょうしたエッセー「絵本のなかへ帰る」にかいてゐる。「おおきなかぶ」「ないたあかおに」…。しよてんをはじめたちちによみきかせてもらった。ようじきからこそだてをへていまにいたるまでともにしてきた。かずかずのほんとのひびを、いんしゅうぶかいさくひんのせかいにかさねた◆にいがたの旧山古志村がぶたいの「きつねによつぼう」はまんかいのツバキがモチーフだ。高村さんのほんにさそわれてよんでみた。きんりんのわにさかりのきをみつけた。「ああ、ここにも」ところがほぐれる。えほんのみりよくはおとなもあじわえる。ねんどがあらたまりなにかとおちつかなくても、そんなじかんをたいせつにしたい。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

斜面

2021.4.3

サンフランシスコで天然痘が流行した1876年。市担当者がまん延の原因だと根拠なくののしった相手は、ゴ

ールドラッシュを機に移住していた中国人だった。低賃金で働く彼らは、白人たちの仕事を奪っていると白眼視されていた◆1900年にチャイナタウンでペストの発生が疑われると、すぐに街を封鎖した。白人を退去させる一方、アジア人が出ることを禁じた。同じころ欧州ではドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が黄禍論を唱え、台頭する日本への警戒を盛んに言い募っていた―◆世界史の深部を長く流れる西欧とアジアの対立、差別の歴史は廣部泉著「黄禍論 百年の系譜」に詳しい。米国で急増するアジア系市民への憎悪犯罪も、深い部分で根は同じか。路上で突然暴行される。侮蔑的な言葉を吐かれる。白人だけでなく黒人や中南米系からも攻撃される◆新型コロナを「中国ウイルス」と繰り返し叫んだトランプ前大統領らの罪は大きい。居場所を失って鬱屈する人々が他者を排撃する「免罪符」になったのではないか。心の中に潜む差別や偏見は、きっかけがあればいつでも噴き出す。どの国でも同じだ◆ふだんは隠れている病が症状として現れた今こそ、治療の好機といえる。沈黙は差別の容認に等しい。著名なアスリートやアーティストも相次いで非難のコメントを発信している。憎悪に憎悪を返すのではなく、理性を回復したい。コロナとともに世界が乗り越えねばならぬ大きな宿題だ。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましよう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましよう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましよう。

Three large dashed boxes for student responses.

()

()

()

伝えたい順番